

は じ め に

北海道麦作共励会は、今年で36回を数えることとなりました。この間、関係各位の皆様には絶大なるご支援、ご協力をいただいております。ここに、厚くお礼申し上げます。

本年の第1回審査委員会（委員長：北海道農業研究センター入来規雄寒地作物研究領域長）を8月7日に開催し、開催要領、審査基準、推薦調書について検討を行い、本年の北海道麦作共励会の取り組みを決定いたしました。その後、審査委員会の決定を踏まえ、8月10日付けで各地区協会に開催案内を行い、関係機関・団体に、後援依頼と参加推進をお願いしました。

平成27年産の秋まき小麦は、前年対比135%の多収となり10a当たり収量628kgで平年対比でも144%と平年を大きく上回ることができました。

春まき小麦では、前年対比99%となりましたが、10a当たり収量327kgとなり平年対比113%と平年を上回りました。

全道の収穫量は、約66万トン、当初約56万トンの収穫量を見込んでいましたので計画対比118%となり過去最高の収量となりました。作付面積は、約12.2万haで前年対比99%でした。

一方、品質面では秋まき小麦の1等麦比率が約98%と過去5年間で最も高く、ランク区分でもほとんどが基準値をクリアできました。

また、春まき小麦でも赤かび病などの病害発生は少なく千粒重や製品歩留まりも良好でした。

一部の地域では降雨による品質低下が見られたものの1等麦比率では過去5年間で最高となりました。

収量で昨年を大きく上回った要因として、6月下旬から7月中旬まで低温傾向となり、登熟期間が48日間と平年より4日長かったこと。また、穂数がやや多く千粒重も重く、製品歩留まりも高かったことによります。

全道的に良い作柄となり、関係者の熱意で8点の出展となりました。8点の内訳は、第1部（畑地における秋まき小麦）個人で2点、第1部（畑地における秋まき小麦）集団で2点、第2部（水田転換畑における秋まき小麦）個人で3点、第2部（水田転換畑における秋まき小麦）集団で1点でした。

11月11日に第2回審査委員会を開き、推薦調書を基に審査を行い、部門毎の賞を選考し、12月1日に現地調査を行い、正式に各賞を決定いたしました。

本報告書は、各受賞者の麦づくりと経営概要をまとめたものです。作成に当たって、入来審査委員長に審査報告をお願いし、関係地区の審査委員はじめ農業改良普及センター、農協の関係各位に各受賞者の概要をまとめていただきました。本報告書が皆さんの麦づくりや経営改善の一助になることを願っております。

最後になりますが、本年の麦作共励会の実施にあたり、ご協力いただいた関係各位の皆様に対しまして、あらためて心からお礼申し上げます。

平成28年2月5日

一般社団法人 北海道米麦改良協会